

令和2（2020）年度 資源評価調査報告書

種名	イセエビ	対象水域	太平洋中南部
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター	協力機関名	千葉県水産総合研究センター、東京都島しょ農林水産総合センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知県水産試験場漁業生産研究所、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課、高知県水産試験場、宮崎県水産試験場

1. 調査の概要

- ・ 漁業・養殖業生産統計年報が利用可能である。
- ・ 千葉県では、主要地区刺網漁業のCPUE（kg/隻・日）により水準と動向を評価している。
- ・ 静岡県では、漁獲量を基準として水準と動向を評価している。
- ・ 三重県では、漁獲量の推移から水準を、さらに、標本地区の刺網によるCPUE（中銘柄の10月漁獲量に水温と月齢データを加えて解析した標準化CPUE）に基づき動向を評価している。
- ・ 宮崎県では、年間漁獲量の推移から資源レベルを、直近5年間の9～10月の漁獲量推移から県全体及び北部・中部・南部の地区ごとの動向を評価している。また、漁期中における漁獲量とCPUE(kg/日・隻)から漁獲対象資源量と漁獲率の分析や、小型エビの放流効果、漁獲サイズについての調査も実施されている。
- ・ 標識放流や漁獲サイズについての調査も実施されている。

2. 漁業の概要

- ・ 千葉県では主に外房地区で刺網により漁獲される。千葉県漁業調整規則により制限全長と禁漁期が定められている。
- ・ 静岡県では漁場は伊豆海域、榛南海域が中心で、漁獲は刺網で行われる。静岡県漁業調整規則により制限体長と産卵期禁漁が定められている。
- ・ 三重県では、ほとんどが伊勢湾口から熊野灘海域で、刺網により漁獲される。三重県漁業調整規則により、頭胸甲長の制限と禁漁期が定められている。
- ・ 和歌山県の漁獲のほとんどが紀南地方で冬に刺網により漁獲されている。和歌山県漁業調整規則により、制限体長と禁漁期が定められている。
- ・ 宮崎県の漁獲のほとんどがいせえび磯建網漁業によるものであり、県南部（宮崎市の一部～串間市）の漁獲が比較的多い。宮崎県漁業調整規則による禁漁期・制限体長のほか、2011年からいせえび磯建網漁業の資源管理計画（自主的規制措置）が実施されている。
- ・ 漁業調整規則による公的な定めのほか、自主的な管理措置も実施されている。
- ・ 太平洋中・南部ではほかにも、東京都、神奈川県、高知県でも資源管理措置が行われている。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：日本周辺におけるいせえび類は、黒潮の影響の強い沿岸の岩礁域と南西諸島・伊豆小笠原諸島に分布しており、毎年漁獲量が記録されているのは茨城県以南の太平洋沿岸（瀬戸内海区の紀伊水道を含む）と長崎県以南の九州西岸および沖縄県である。中でも太平洋に突き出た房総半島、伊豆半島、紀伊半島での漁獲量が多い。いせえび類にはイセエビの他にカノコイセエビ等が含まれるが、漁獲量の大部分はイセエビが占められると思われる。沿岸の岩礁域で夏に孵化した幼生（フィロソーマ）は孵化後2～3カ月で黒潮を越えた太平洋上で浮遊期を過ごす。1年近い浮遊生活ののち、成長したフィロソーマは脱皮してエビ型の幼生（プエルルス）になり、沿岸域へ移動する。その後さらに脱皮して稚エビになり、稚エビ以降は定着性となる。
- (2) 年齢・成長：2歳で頭胸甲長40 mm程度、3歳で55 mm、その後雌雄差が出て4歳で雄65 mm、雌60 mm、5歳で雄75 mm、雌65 mm。3歳で産卵開始（静岡）。2歳で頭胸甲長42～45 mm、3歳で56～62 mm、4歳で65～74 mm。
- (3) 成熟・産卵：産卵期は春～夏季。5～9月（千葉）、5～7月（三重）。
- (4) 食性：貝類や甲殻類を捕食。

4. 資源状態

- ・漁業・養殖業生産統計年報での2019年漁獲量は、太平洋中区で652トン、太平洋南区で293トンであった。
- ・千葉県では、沿岸重要水産資源令和2年度評価において、主要地区刺網のCPUE（kg/隻・日）を指標に、2019年の水準を高位、動向を増加と評価している。
- ・静岡県では、令和元年度の県内版資源評価において、漁獲量を指標に、水準は高位、動向は減少と評価している。
- ・三重県では、令和元年度沿岸種資源評価において、標本地区の刺網について標準化したCPUEを指標に、水準を高位、動向を横ばいと評価している。
- ・宮崎県水産試験場の第10回（2020年）沿岸資源評価では、漁獲量を指標に、資源レベルを低位、動向は県全体と県南部は減少、県北部と県中部は横ばいと評価している。

5. 資源回復などに関するコメント

- ・各県において、漁業調整規則による公的な管理措置のほか、自主的な管理措置にも取り組まれているところである。

6. 引用文献

- 松田浩一・山川卓（2019）イセエビの漁獲動向と資源管理．黒潮の資源海洋研究, 12, 61-66.
- 千葉県（2020）イセエビ．沿岸重要水産資源，令和元年度資源評価．
<http://www.pref.chiba.lg.jp/gyoshigen/sigenhyoka/index.html>
- 静岡県（2020）イセエビ．県内主要魚種の動向（県内版資源評価）．
https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/02fishery/2-5/20_iseebi.pdf

三重県 (2020) イセエビ概要版. 令和元年度三重県沿岸種資源評価.

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000889576.pdf>

宮崎県水産試験場 (2020) 再評価③イセエビ資源評価票. 宮崎県沿岸資源評価.

<http://www.mz-suishi.jp/result/result0.html>

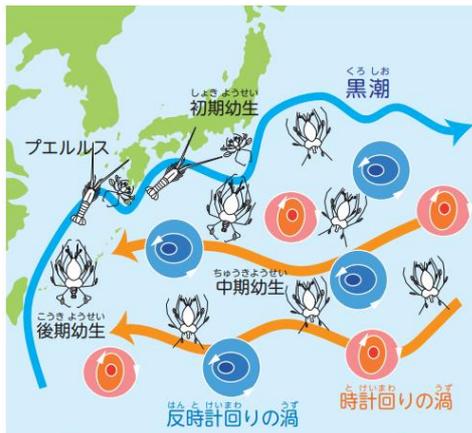


図1. イセエビの移送経路 水産研究・教育機構 (2018) おさかな瓦版 イセエビ

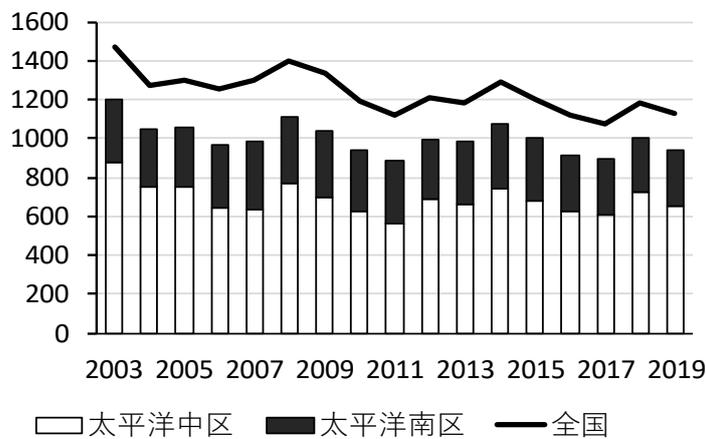


図2. 全国及び太平洋中区・南区におけるイセエビ漁獲量 (トン)

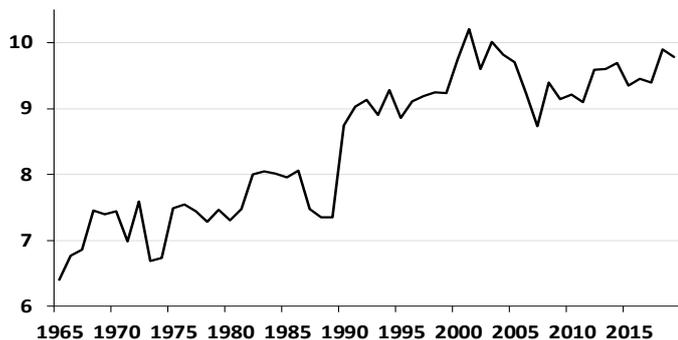


図3. イセエビの漁獲量重心位置の長期変化

重心位置の計算には松田・山川（2011）に記載の方法を用いた。ただし都県への付与番号は1長崎から16茨城までとした。数字が大きいかほど東への変化を示す。

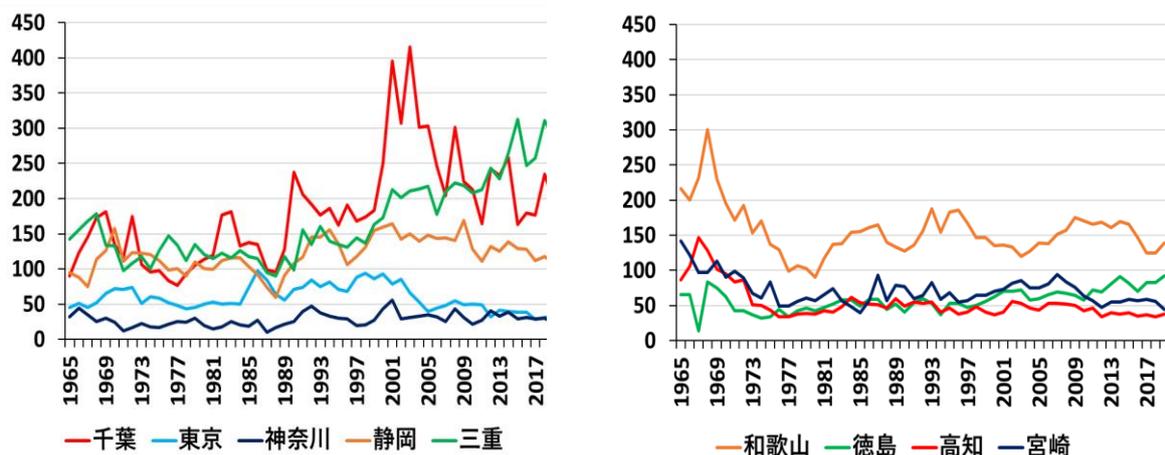


図4. 太平洋中区・南区の主要漁獲県における漁獲量（トン）の推移